

## 目 次

企業風土 ～見えない経営資源～ 佐藤 和志	1
8月 定例理事会	3
技術者紹介コーナー（第91回） 川神 清之介	4
H23年度ジオ・ラボネット技術者交流会 中田 有美	5
全地連 「技術フォーラム2011」京都、参加・ブース出展報告	7
シリーズ「中小企業人材確保推進事業」の実施内容紹介	
中小企業人材確保推進事業コーナー	9
ワーク・ライフ・バランスセミナーを開催します	
中小企業人材確保推進事業コーナー	12
支援サービス小委員会よりお知らせ『平成23年度技術者交流会』参加者募集!!	13
記念新企画 【自慢好学会の井戸端自慢】	14
【アフター5 ワイガヤ広場】開催報告（No.20）	17
こんな時代だから、ちょっと心に残る良い話	18
編集後記	19

### 表紙説明

今月号の表紙写真は、富士山の剣が峰に建つ富士山測候所です。現在は無人観測となっておりますが、以前はこの上にドーム型のレーダー（富士山レーダー）が設置されていました。

厳しい気象条件の中、困難を極めた富士山レーダー建設の様子は、NHKのTV番組「プロジェクトX」で第1回放送の題材となったことでも知られています。また、かつて気象庁でレーダー建設の指揮を執った本人、新田次郎が書いた「富士山頂」には、事実に基づく過酷な建設作業の様子が克明に記されており、富士登山を目指す方には特にお奨めの作品です。

なお、この表紙写真のために困難を極めた富士登山の様子についても、本文中に登山リーダーが手記を記していますのでご一読ください。

（小田 記）



# 企業風土 ～見えない経営資源～

専務理事 佐藤 和志

各地には自然を含む環境に適応したそれぞれの生活や文化があり、その風土を育てる土壌になっています。私は、これまで多くの地域や社会でいろいろな風土を体験してきました。この中で学んだことは、風土の違いを認めて理解し、溶け込むことや発信することの大切さです。このことで培われた変化を認める柔軟性（優柔不断やいい加減さともいえる）や視野の広さが、人生を有意義に送る基礎になっています。

サラリーマンの転職や転勤・異動などで個人はどんな違いに遭遇するでしょうか。自然面では、周辺環境・景色・気候・太陽や星の位置・夜明けと日没・空気・水……、職場面では、待遇、建物・上司部下など回りの人・交通手段・就労体系・時間感覚・書類手続き・顧客……、生活面では、生活環境・ことば・顔・住まい・家族構成・食べ物・休日の過ごし方……など限りなくあり、個人の内面的にも少なからず影響を受けることになります。

風土は、その中にいる者にとっては環境そのものであり、一体となっているためにほとんど意識されずに受け入れられています。中には、外部のものにとっては容易に理解できないこともあり、それが特性になっていることが多いようです。企業の場合これを「企業風土」と総称して良いと思います。

「企業風土」は企業などの組織が、歴史と環境の中で形成してきた独特の価値観や行動様式であり、組織活動の推進力の一つです。組織によって違うのはもちろんですが、同じ会社でも部門や地域によって違います。したがって、経営にとっては大切なものであるとともに厄介なものもあります。最近、「企業風土」がマネジメントの対象になっていることがそれを示しています。大切なところは、この良し悪しが成果を左右し、業績に影響を与える重要な経営資源の一つであることです。一方、厄介なところは、時代とともに変わる外部環境に対応した変化が求められている時に、容易に変わることができずに阻害要因になることです。無意識のうちに形成されて環境の一部になっており、経営課題として具体化し難いためです。また、改革の推進役となる、経営層が最も意識できないことも要因の一つです。

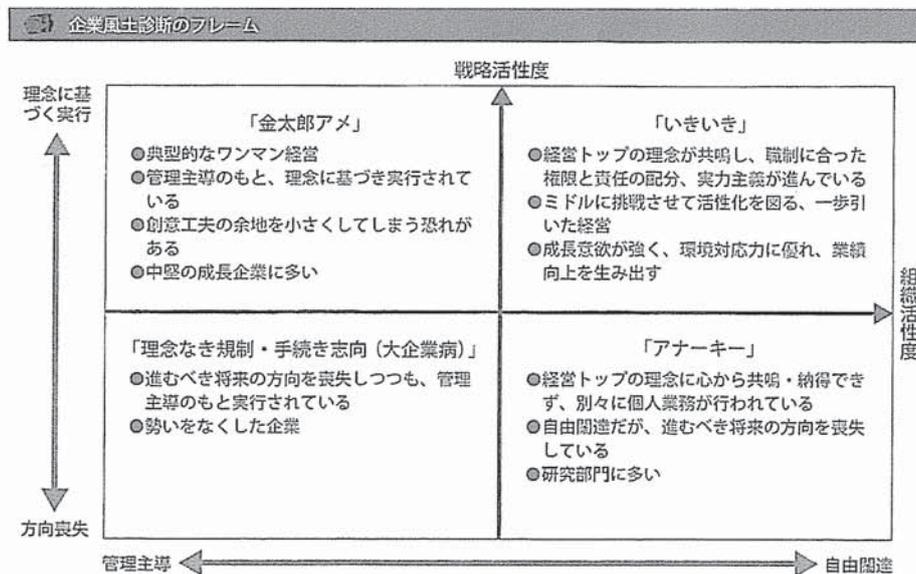
企業は、情報化やグローバル化などの進展にともなう低成長社会を向かえ、最近では100年に一度の金融危機に見舞われるなど、“これまで”を維持してきた仕組みが通用しなくなってきて、変わることが求められています。そして、「企業風土」をどのように取り扱うかが問われている

場合も少なくありません。これからの社会は、大切な“これまで”を守りつつ、新たな展開を進めなければ生き残れません。次世代のために、全員が発想を変え創意工夫を凝らして、この難局を乗り越えて、より良い明日を目指さなければならない社会です。

皆さんは、自分の会社の「企業風土」を解っていますか。全員の共通理解になっていますか。それは“これから”の低成長社会においても継続的な成長を伺えるものですか。などを意識的に考えてみては如何でしょうか。目先のことに囚われて、当面を繕うことで変わったつもりになっていても、「企業風土」が変わらないことには継続的な安定そして維持拡大は望めません。

当センターも、一昨年には増改築の完成と守口の移転、そして昨年度は創立30周年を迎えるなど大きな節目がありました。これを機に、次世代を意識した「企業風土」改革に積極的な取り組みを進めています。協同組合の目的が設立当時とは違って、多様化し不明確になる一方でその役割・必要性はむしろ強まりつつあります。準公的機関として培った30年の信頼と実績に加えて、品質向上と価格競争力更には人材育成による社会貢献が求められています。

役職員が一丸となって意識改革に取り組むことによって、顧客指向の徹底を図り、経営の安定化と『三方よし』の実現に努めます。ご理解ご協力をお願いいたします。



「野村総合研究所」資料より



所 属：興亜開発株式会社 関西支店  
 氏 名：川神 清之介  
 出 身 地：島根県浜田市  
 趣 味：魚釣り（磯釣り）  
 生年月日：1979年1月26日

平成 23 年 4 月に興亜開発（株）中国四国支店から関西支店に転勤して参りました、川神清之介（かわかみせいすけ）です。

始めに自己紹介をいたします。

- ①生年月日 昭和 54 年 1 月 26 日の 32 才（嫁、子と 3 人で堺市に住んでいます）
- ②出身地 島根県浜田市  
特産品は日本海の幸です
- ③趣味 魚釣り  
磯釣りが大好きでポイントの地形・地質を考察しながら楽しんでおります
- ④サイズ 168cm 85kg（5 年前は、65kg だったのですが…）
- ⑤血液型 AB 型（優柔不断ではありません）
- ⑥自己 PR 『体力（耐力）』には自信があります  
小学校から大学まで野球部に所属しておりました。  
高校からは、全寮制で本格的に頑張りました。

次に関西に来て驚いた点を挙げます。

1. 普通に歩いているおじちゃんやおばちゃんが声を掛けてくる
2. 電車を降りようとしたらホームで待っている人が先に乗ってくる
3. 『なんば』のことを『ミナミ』という

関西の方は、人情味があってせっかちな人が多いのかなという印象です。

興亜開発（株）関西支店では、主に地質・土質関係の業務を行っております。当初は、4 月から徐々に関西の環境に慣れて行こうと考えておりました。しかし現実には、引っ越して来た翌日から現場と支店の往復のみで 9 月の中旬を迎えてしまいました。今の厳しい受注環境のなか、うれしい悲鳴ですが毎日が一杯一杯です。しかし一杯を積み重ねて行けば、2 杯・3 杯となり最後は大きな樽ようになって行きたいと考えております（体型だけは樽みたいと言われます）。

末筆ながら、ご自愛ご発展のほど、お祈り申し上げます。

# 平成23年度 ジオ・ラボネット技術者交流会

日 時：平成 23 年 9 月 1～2 日  
場 所：ウイंक愛知（愛知県産業労働センター）  
主 催：ジオ・ラボネットワーク  
共 催：中部土質試験協同組合  
報告書作成：地盤技術室 中田有美



## 【一日目】

### ①特別講義「せん断試験と強度定数」 小高猛司氏（名城大学理工学部教授）

三軸圧縮試験を基に、基本と応用を一般的な教科書からではなく実務的な見地から説明がなされ、実際の設計などへの利用やその注意点などの再確認を行った。非常に分かりやすい説明で、当組合と組合員の皆様を結ぶような試験結果の利用に関する話もなされ、非常に有益であった。次のホームページから資料をダウンロードできる。

<http://civil.meijo-u.ac.jp/lab/kodaka/index.htm>

### ②技術者交流

各組合の職員による土質試験に関する意見交換が行われた。

- ・ 電磁式自動ふるい装置を用いた高品質な粒度試験の提案
- ・ 建設資材に適用される地盤材料試験について
- ・ 一軸圧縮試験の供試体寸法の違いによる強度差
- ・ 簡易 CU 三軸試験についての報告

等の報告があった。当組合からは現行の土の粒度試験（ふるい分析）方法の検討について、地盤技術室職員の中田有美が報告を行った。



### ③懇親会

懇親会では、各試験担当者がより技術的・専門的な情報の交換や意見の交換を行った。全国に散らばる各組合の試験室に持ち込まれる関東ロームやまさ土などの特殊な土の扱いに関する話など、非常に有益な情報を交換できた。また、当組合が毎年中心となって行っている同一試料を用いた一斉試験に関する意見などもいただき、各試験者のモットーなども知ることができた。

## 【二日目】

### ①木曾川三川治水見学ツアー

名古屋駅を出発し、バスで木曾三川公園に行き、展望台から木曾三川を眺めた。折りしも台風 12 号が近づいており、強風で展望台が揺れる程でした。その後の台風 15 号ではこの三川の内、木曾川も氾濫注意レベル 2 になるなど、この度の名古屋の台風による河川の氾濫を非常に身近に感じた。



展望台から見た木曾三川と展望台



展望台近くの治水神社には河川の変遷と工事犠牲者の慰霊碑などがあった

## ②海津町歴史民族資料館

資料館では職員の方に案内していただき、非常に有益なものとなった。



水害に備えて居室の天井に小船が留められていた当時の家

地中から発掘された当時用いられた樋門。長年川底に埋まっていたので保存状態も良く、資料館に展示されている



職員の方が地元出身の方で、水害の多かった当時のお話や、子ども時代に苦労した話などをお聞きした。子ども時代、田植えの時期に足踏み水車を踏むのが嫌で部活を言い訳に家に帰らなかったり勉強を言い訳に手伝わなかったり「今の時代の子どもの引きこもりって言うのは理解できない、家にいたら余計に大変だった」というお話をお聞きして、時代の移り変わりを感じた。

## ③ ジオラボ中部見学

ツアーの終わりにジオラボ中部試験室を見学させていただいた。試験室のみならずデータ整理ソフトに関する詳細なお話など、大変興味深いものであった。特に当組合の職員が目を輝かせたのは、凍結試料を成形する機械（右の写真）。各組合独自に改良を重ねた機械は組合の特色であり、今後当組合も様々な試験機・設備の改良を重ねてゆきたい。



また、中部試験室では土粒子密度の測定に際し、右に示すようにホットプレートと三角フラスコを改良した比重瓶を用いており、その利点等についても伺った。一度に捌ける数量や手間など、話題は尽きない。



## 終わりに

他の試験室を見学させて頂くことは、試験に携わる者として、各々の試験室で行われている創意工夫、技術の研鑽を生で見る数少ない機会であり、さらには土質試験について語り合い情報を共有できる環を広げる貴重な機会でもある。メールや電話でしかやり取りのない他の組合試験室の方と直接お話する中で、それぞれの試験に対する熱意や思いに触れ、自分自身が刺激され、今後の目標や自分が仕事を行っている中で改良点などに気づき、土質試験に向き合う意欲をさらに高める良い機会になったように思う。

今回のベストショットはジオラボ中部所有の大型三軸試験機。なんと私の背の高さと変わらない超ビッグサイズ（注：156cm）！背圧をかけて貰ってスマートになって帰って来られなかったのが心残りです。今回、このような機会を与えていただき、ありがとうございました！



（地盤技術室：松川・梅本・中田）

# 全地連「技術者フォーラム」京都 参加・ブース出展報告

センター長 中山義久

去る平成 23 年 9 月 8 日～9 日の 2 日間、京都市南区の京都テルサにおいて、全地連「技術フォーラム 2011」京都が開催されました。

関西地区で開催されるにあたり、協同組合関西地盤環境研究センターとして技術発表 2 編と企業展示コーナーへのブース展示を行いましたので報告いたします。

技術発表の 1 つ目は、ケースヒストリーセッションにおいて、松本修司職員が「連続大型不攪乱試料による土層構造調査法」と題して発表を行いました。歴史的に価値のある土構造物（たとえば古い堤体や城郭石垣の裏ごめ土）を修復する際、築造当時の施工法を把握しておく必要があります。そのために長く連続した不攪乱試料を採取し、観察や分析を行います。不攪乱試料の採取と室内試験処理は以下のようです。ピット内で長さ 1.25m、幅 45cm の剛な板（予め釘穴をあけておく）を板の長手方向と深度方向が同じになるように押しつけ、板の四辺に沿って釘（長さ約 20cm）を約 100 本打ち込み、試料周辺地盤を掘削し取り出します。室内に持ち帰り、針貫入測定と強熱減量試験および詳細な目視観察などの土構造観察から築造時の施工法推定の資料とします。

技術発表の 2 つ目は、室内試験セッションで、松川尚史職員が「ふるい残留量測定方法の違いによる粒度試験結果の検討」と題して発表を行いました。フルイ残留試料の質量計測方法を 2 通り（ふるい残留量を個々に測定する方法とふ



写真-1 松本職員の発表の様子



写真-2 松川職員の発表の様子



写真-3 フォーラムの入り口

るい残留量を累積で測定する方法)で行い、それらの測定結果とその精度について、詳細に検討したものです。この研究はJISの試験方法の変更にも少なからず影響することが考えられます。

ブース展示は、①センターが取り組んでいる人材確保推進事業の一環として、組合員企業41社の紹介をしました。②土木工事プロジェクトにおける土質試験の位置づけと重要性を図示しアピールしました。③東日本大震災で関東平野の沖積層に大きな被害を引き起こした液状化現象の調査・対策・施工の一連の流れの中で、土質試験が重要であることを説明しました。④全国の土質試験協同組合で組織されているジオ・ラボネットワークの目的・役割・協力体制について図示しました。また、当ブースの近くにはコーヒーサービスコーナーもあり、関心をもって立ち寄られた方も多数おられました。

交流会は京都でのフォーラム開催をアピールするかのよう、祇園からきれいどころが4名、写真にあるように懇親の場を盛り上げてくれました。

今回は東日本大震災の影響で東北地区からの発表が少なかったようです。さらに台風12号の影響で紀伊半島を豪雨災害が襲いかかる状況下で、参加されていた技術者達はかなり、パタパタされていたようです。それにも関わらず、100編の発表と500名あまりの参加者を得て、「現場へ戻ろう」をキーワードにしたフォーラムは無事終了いたしました。



写真-4 フォーラム受付



写真-5 ブース展示コーナーのにぎわい



写真-6 センターのブース展示



写真-7 交流会の余興



写真-8 人材確保推進事業のロゴマーク

# ～シリーズ～『中小企業人材確保推進事業』の実施内容紹介

「経営意識・雇用管理実態のアンケート調査」4/6

## 労働環境実態調査(個人対象)

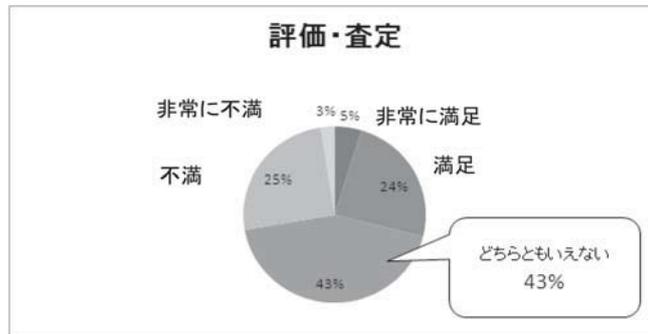
### 現状の満足度について

#### 問1-4 評価・査定

- ① 非常に満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤非常に不満

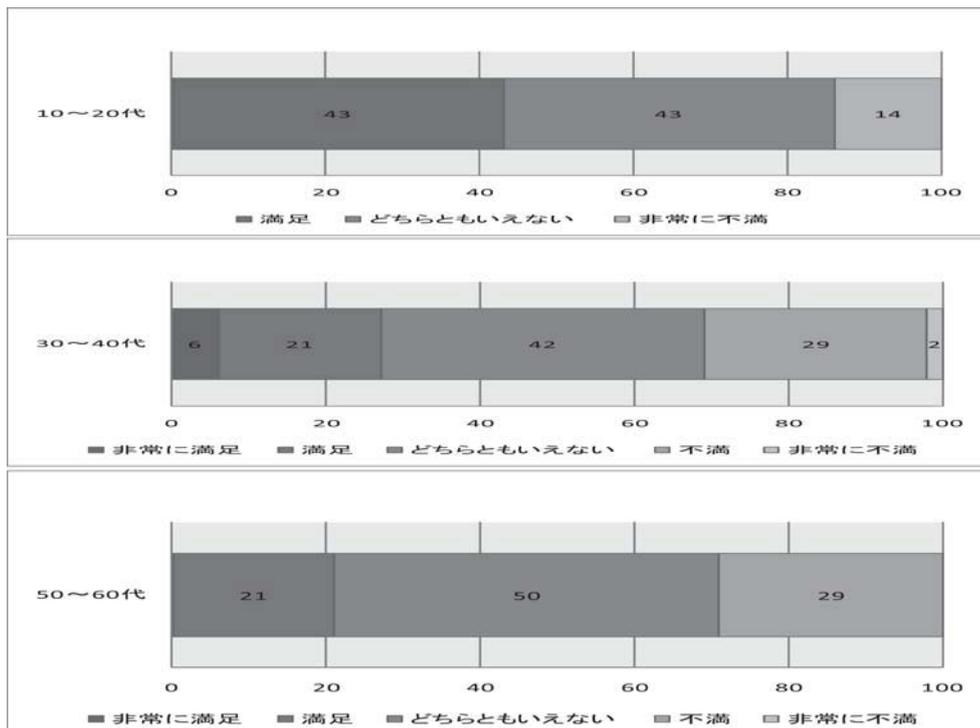
社員要望の筆頭に給与や報酬が挙げられます。これは中間項としての「評価」が存在していることで、最終的な報酬に結びつきます。つまり、他者からの評価や承認という行為が加えられて、給与や報酬につながるもので、結果として得られるものが報酬であるという関係式がその背景に存在しています。

社員は自分の働きぶりを正当に評価されたいと願っています。自社の評価制度のどこに公正性を欠く原因があるのか突き止めなければなりません。問題点が評価基準か、それとも運用ルールか、評価者なのか、このあたりを突き止めていくことがポイントになります。



#### 【アンケート結果の解説】

全体的には「満足」以上が約30%、「どちらともいえない」が約40%、「不満」以下が約30%という結果となりました。年代別に見ていきますと、10代～20代では「満足」が約45%、「どちらともいえない」が約45%、「不満」以下が約10%となっています。30代～40代では「満足」以上が約30%、「どちらともいえない」が約40%、「不満」以下が約30%となっています。50代～60代についても、「満足」が約20%、「どちらともいえない」が約50%、「不満」以下は約30%となっています。こちらの世代においても同じような特徴がでています。自社の評価制度が公正であるか、またシンプルで運用しやすい評価制度であるか見直しが必要ともいえます。

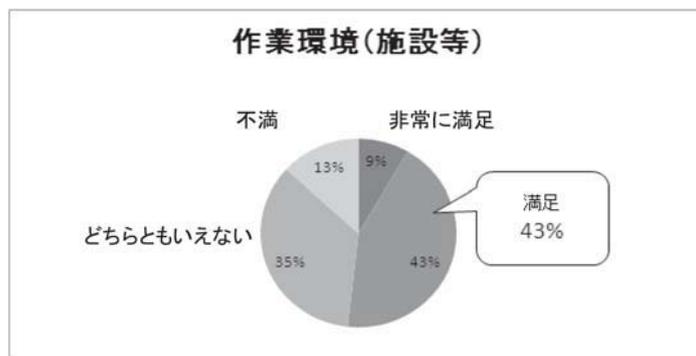


問1-5 作業環境（施設等）

- ①非常に満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤非常に不満

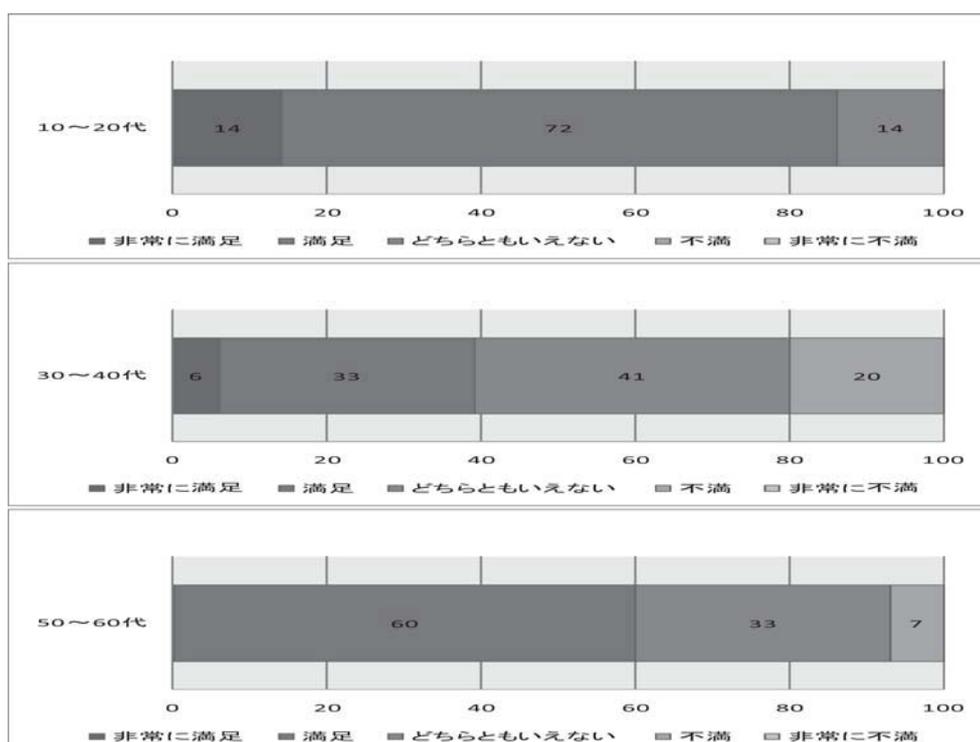
一つの重大事故の背後には約30の軽微な事故があり、その背景には300の異常があると言われています。

そして、災害を防げば傷害はなくなり、不安全行動と不安全状態をなくせば災害も傷害もなくせるという教訓が導かれています。ヒヤリ・ハットしたことの報告の徹底、全社員共有が改善方法のひとつと言えます。



【アンケート結果の解説】

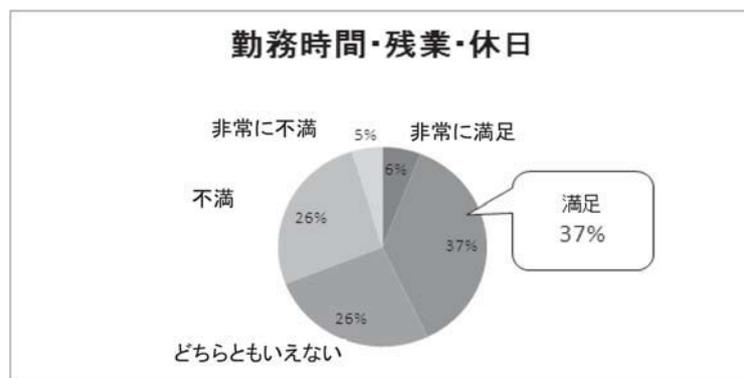
全体的には「満足」以上が約55%、「どちらともいえない」が約35%、「不満」以下が約10%という結果となりました。年代別に見ていきますと、10代～20代では「満足」以上が約85%、と高い数値を示しております。30代～40代では「満足」以上が約40%、「どちらともいえない」が約40%、「不満」以下が約20%となっています。「どちらともいえない」以下が約60%を占めており、勤務経験から得た作業リスクが直接要因として現れているようです。50代～60代については、「満足」が約60%、「どちらともいえない」が約30%となっています。この世代においては「満足」の割合が高いことが特徴といえます。この要因には管理職業務が中心となっていると考えられ、直接作業環境に携わることが少ないことで、作業リスクにおける意識の弱さがこのような結果を示したと思われる。



問1-6 勤務時間・残業・休日

- ①非常に満足 ②満足 ③どちらともいえない ④不満 ⑤非常に不満

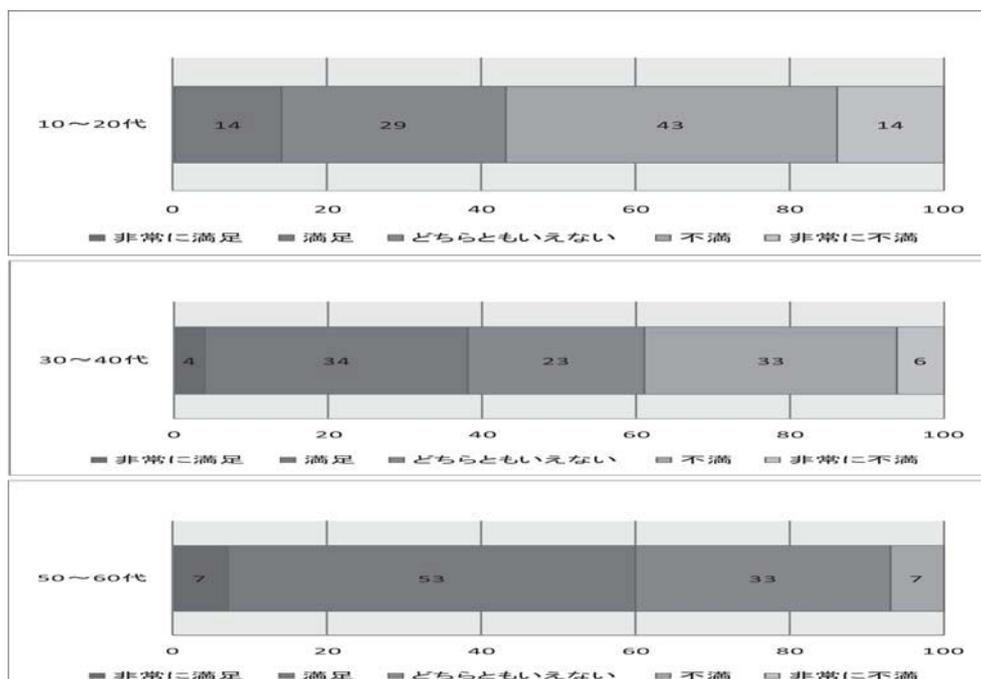
これまでの企業では、仕事を中心に生活が回り、どうしても私的な部分はないがしろにされるきらいがありました。自分を前面には出さず、仕事を最優先することが尊ばれる風潮もありました。しかしこれからは、全社員が仕事も頑張る代わりに私生活も充実させることや、仕事と私生活とのライフ・ワーク・バランスをとり、各自の事情を尊重して働けるような環境整備が必要とされる時代です。“Quality Of Life”（生活の質）の向上が改めて重視されるようになりました。



【アンケート結果の解説】

全体的には「満足」以上が約45%、「どちらともいえない」が約25%、「不満」以下が約30%という結果となりました。年代別に見ていきますと、10代～20代では「満足」以上が約15%、「どちらともいえない」が約30%、「不満」以下が約55%と厳しい数値結果となりました。30代～40代では「満足」以上が約40%、「どちらともいえない」が約20%、「不満」以下が約40%となっています。こちらは「満足」が10代～20代に比べて高い数値となりました。50代～60代については、「満足」が約60%、「どちらともいえない」が約30%となり、「不満」が約10%となりました。こちらも年齢層が高くなるにつれ、「満足」の割合が高い傾向にあります。

仕事とプライベートとのワークバランスについては、ここ数年で意識付けが大きく変化しており、過酷な残業環境に関する項目についても、従業員満足度を著しく引き下げる要因であるのも事実です。



# ワーク・ライフ・バランス セミナーを開催します

人口が減り続け、ライフスタイルの多様化が進んでゆく現在、就業を取り巻く環境も大きく変化しています。その中、我々一人ひとりが仕事と家事・育児など、生活との調和を実現する事が大変重要になってきています。又、企業にとっても、ワーク・ライフ・バランスの推進は少子高齢化の流れに対応し、優秀な人材を確保するための有効な経営戦略となってきています。

今回は、昨年度より実施しております「中小企業人材確保推進事業」の一貫と致しまして、「ワーク・ライフ・バランス」セミナーを開催する事と致しました。このセミナーを通して我々労働者や企業にとって大切な、「ワーク・ライフ・バランス」について考えてみませんか。

多数のご参加をお待ちしております。

## 記

テーマ：「ワーク・ライフ・バランス」実現に向けて

1. ワーク・ライフ・バランス憲章とは
2. 父親の育児休業について
3. 共働き夫婦のワーク・ライフ・バランス
4. 両立支援に関する助成金について
5. 職場の多様性と生産性
6. その他

講師：ヒロセ社会保険労務士事務所 長谷 和弘 氏  
株式会社 経営カウンセリング 上村 博規 氏  
税理士法人 広瀬 森 純啓 氏

日時：平成 23 年 10 月 14 日（金）16：00～17：30

場所：大阪キャッスルホテル（京阪電車・地下鉄天満橋駅下車すぐ）

〒540-0032 大阪府中央区天満橋京町1番1号

TEL (06) 6942 - 2401 / FAX (06) 6946 - 9043

参加費：無料

以上

送付先：FAX06-6829-2257  
協同組合 関西地盤環境研究センター  
総務企画室 森 宛

申し込み期限：平成 23 年 10 月 7 日

## ワーク・ライフ・バランスセミナー 参加申込書

氏名	会社名	TEL	e-mail

# 「平成23年度技術者交流会」

## 参加者募集!!

支援サービス小委員会では、下記のとおり、技術者交流会を開催いたします。

交流会の主な目的の一つは「つながること」です。

この技術者交流会を通じて、技術者間の親交を深めていただければと願っております。

ご多忙とは存じますが、奮ってのご応募をお待ちしております。



日 時：平成23年10月14日 14:00～16:00

16:00～ ワーク・ライフ・バランスについての講演会

17:30～ 懇親会

場 所：キャッスルホテル

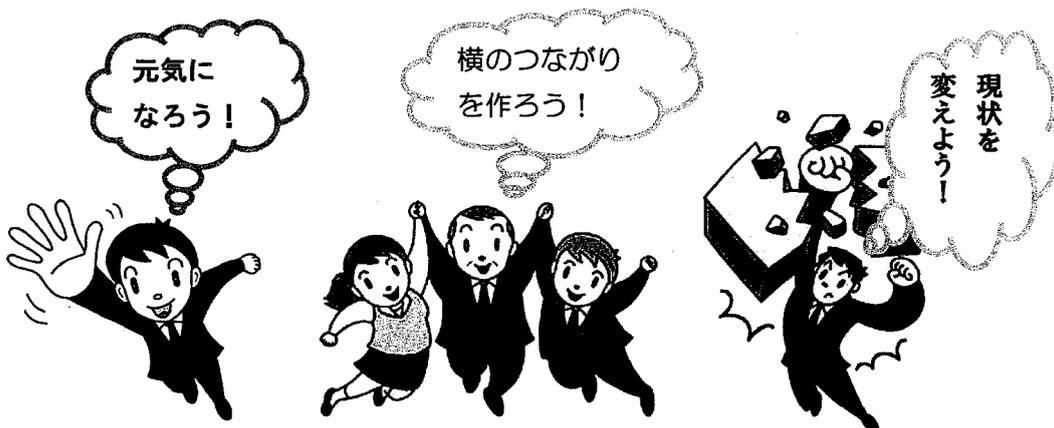
テーマ：『業界をとりまく現状』について語ろう！

\*仕事以外の話題も大歓迎です。肩の力を抜いて気楽に語り合いましょう！

司 会：中村 出氏（株式会社日建設シビル）

定 員：10～15名

CPD：2.0



\*当日は、座談会形式を予定しております。

\*参加ご希望の方は、10月12日までに下記までお申し込みください。

支援サービス小委員会事務局（楠本）e-mail：service@ks-dositu.or.jp

————— なんともピッカリなオしたち? —————

## 【自慢好学会の井戸端自慢】



念願のご来光!

「……ヘッドライトを……下さい……私は初めて流れ星を見たのも富士山でした……次の休憩では運が良ければ……」

夢見心地の頭に昨日1日で耳についた舌っ足らずの声が切れ切れに届く。目の前に広がる満天の星空に視線を結び、昨夜はこの星空をプラネタリウムのようにしか形容できなかった自分を思い出したとき、流れ星が一筋、夜空を切り裂いた。

「あっ、流れ星っ! あたし、初めて見ました。願い事なんて無理ですね」と若い女の声。

「双子座流星群はすごかったなあ～あれは1時間位続いたからなあ～」と初老の男がつぶやく。

「僕も初めて流れ星を見ましたよ」

と少しあって男が続いた。ちなみに41歳にして初めて流れ星を見た男の感想もやはり「願い事なんてむりやん」だった……。

入社20年を迎え、永年勤続表彰でもらった旅行券の使いみちとして、“日本一の山に登ってみたい”と至極ミーハーな気持ちで選んだ富士登山。仕事柄、山を歩くことは多いがプライベートまでは結構という私は、本格的な登山経験が無く、不安を解消するために周りの人たちにアドバイスを乞うた。昨今の登山ブームよろしく、富士登山を目論む人たちは意外に多く、センターでこの話題を持ち出したところ一気に盛り上がった。

結局、私のほか「昨年切ったアキレス腱が大丈夫だという確認」(S専務、60代)、「人生観が変わるって言うでしょう」(平成生まれのDさん)を加えた3人に、我が家の長男(中3)と長女(小4)の5名という、一見、おじいちゃんと息子、孫が3人の構図で挑むこととなった。

選んだコースは富士宮口コース。4つある登山ルートの中では出発点（新五合目）が最も高い位置にあり、距離が短いのが特徴である一方、岩場が多いことが難点とされる。今夏、我々よりも先に富士山登頂を目指した当センターのオシドリ夫婦？が吉田口（河口湖口）コースを選択したものの、登山客で渋滞していたとの情報を参考にさせてもらった（ちなみにこの夫婦はトラブルに見舞われて登頂できていない…ふふふ）。



さあ～登るでえ～

旅程は8月27日の夜に大阪をバスで出発し、翌朝9時過ぎから登頂を開始。その日の夕方までに一気に9.5合目まで登って山小屋に泊まり、翌朝、山頂でご来光を拝むというもの。

冒頭のシーンは2日目の早朝、いや、午前2時過ぎだから真夜中の方が適切だろうか、山小屋を出発して山頂までもあと30分という場所での一コマである。なぜか、今回の登山を振り返るとこの場面が一番先に思い出された。“舌っ足らずの声”の主は山岳ガイド（富士山では“強力”と呼ぶそう）のCOCCO（コッコ）さん。40代後半だと推察される彼女は、登山用品店に並ぶマネキンのようなスタイルを保ち、“富士山に登ると体調がよくなるよ～”と言うことばには反論の余地がない。ちなみに“若い女”はDさん、“初老の男”はS専務、そして“男”は私である。

「では、そろそろ行きましょうか」愛嬌のある舌っ足らずの声に、最後の力を振り絞り重たい腰をあげたのが午前3時前。登山道を振り返れば、頭上の星ほどではないが無数のヘッドライトが連なり、小刻みに揺れている光景が星空と対称的に不気味だった。噂通りの登山ブーム&山ガールたち…。

あと30分足らずという思いからか、ここから先は意外に足取りが軽く感じたが、山頂の鳥居でCOCCOさんとハイタッチをしたあとはへたり込んだ。そして、しばしの休憩のあと富士山測候所のある剣が峰まで再び登ったのだが、この間は暗闇の中、予想以上の冷え込みと強風でかなり体力を消耗された。富士山測候所にもたれてご来光を待つ間にCOCCOさんがくれたカレーせんべいが妙に美味しく、これも富士山を知り尽くした方ならではの絶妙のチョイスだった。



剣が峰でご来光を待つ

そして、平成23年8月29日5時過ぎにその瞬間は訪れた。数日前からの悪天候をよそに、雲の下からオレンジ色に輝く朝日がゆっくりと登り、四方に陽光を広げていく。それまでは山頂の寒さに震えていた体も一気に温まったように感じ、感動の一瞬であった。この記憶は口中に残るカレーせんべいの味とともに深く脳裏に刻まれることになった。

このあとの下山についてもプチなドラマはあったのだが、“下りの方がきつい”と言われるとおり、愚痴だらけになりそうなので割愛しておく。

ところで、私と同じくお子さんと富士登山を考えている方への情報。山小屋での寝言はともかく中3の長男についてはほとんど問題なく登りきった。が、小4の娘はひどかった。登山開始直後からふにゃふにゃと言いだした

我が娘は、9.5合の山小屋まで来ると酸素の薄さで胸が苦しいと言いだし、仮眠時は2畳に3人という雑魚寝状態のツアー客に迷惑を掛けつづけた。とりわけ、隣に寝床をとったDさんにあっては睡眠時間をほとんど奪う羽目に。私も写真には常にリュックサックを前後に背負った姿が映っている。そんな状況ではあったが、強力なCOCCOさんが常にツアー客の体調に気を配り、我が娘に対しても余裕のある顔で接してくれたので、私は娘のケツを叩くことにだけに集中できた。子ども達もそうだが、素人が登る時には是非山岳ガイド付きのツアーを選ぶべきだと思う。高山病にならないように、休憩のタイミングやペース配分を考えてもらえた御陰で、“チームCOCCO”のメンバーは全員が登頂し、無事に下山することができた。最後に満面の笑みで馬に跨った方もいたが…。

あっそうそう、自慢工学会ネタだということなので少しだけ。自称、晴れ男が2名と雨女が1名で挑んだ今回の登山は、天候だけが心配だった。実際に前日までは悪天候が続き、山頂に登るまで心配だったのだが、最高のご来光が拝めた。ありきたりだが、これもひとえに“日頃の行いの良さ”だというのがメンバー全員の感想だ。富士登山される方は是非、この点にご注意下さい(ふふふ)。

【T・O記】



前後にリュックサックを背負った私



影富士～V



馬に跨る初老の男

ビール片手に、ワイワイガヤガヤしませんか!?

## 【アフター5 ワイガヤ広場】開催報告 (No.20)

9月26日に通算第20回を迎えたワイガヤ広場の開催状況をお知らせいたします。今回はセンター理事、常連、そして職員合わせて20名弱の参加を得ました。技術的な発表として9月中に開催された会議への参加報告が行われました。

まずは先日9月1～2日に開催されたジオ・ラボネットワーク技術者交流会の報告が梅本学職員よりありました。この交流会は毎年各地区の土質試験協同組合が持ち回りでやっているもので、今年は名古屋市にある中部土質試験協同組合が中心となって開催しました。センターから3名の職員が参加し、日ごろの業務に関する問題点や技術に関わる工夫の討議が行われました。そのあとは交流会で大いに懇親を深めました。翌日は木曾川の三川合流地点の見学会で、古くから水害に悩まされてきた地域の先人たちの知恵を目の当たりにし、今後の防災意識の向上に結び付けたようです。

つぎに9月8～9日に開催された、全地連「技術フォーラム2011」京都の参加報告が中山センター長よりありました。このフォーラムにはセンターから2編の技術発表と企業PRコーナーへのブース展示が行われました。技術発表は松川尚史職員と松本修二職員が日常業務をベースにした内容であったこと、さらにブース展示では、人材確保推進事業の取り組みとしてセンター組合員の紹介を、土木プロジェクトにおける土質試験の位置づけとその重要性を、ジオ・ラボネットワークの組織、活動内容、協力体制などをパネルにして、土質試験協同組合の重要性をアピールいたしました。

あとは恒例の乾杯に引き続き、いつものワイワイ、ガヤガヤ状態ですが、理事の面々と参加者が活発な意見交換が行われ、無事盛会のうちに終了いたしました。



梅本職員の技術発表



仲良く乾杯



田中理事の中締め



### 次回開催案内

開催場所：関西地盤環境研究センター

開催日時：平成23年10月21日金曜日 17時30分～

連絡先：Tel:06-6827-8833 E-mail:jyoho@ks-dositu.or.jp

参加費：¥500/人（ビール代 つまみはセンター供出）

（文責 広場管理人 中山代）

# こんな時代だから、 ちょっと心に残る良い話

「みんなで探したちょっといい話」という本が目にとまり、読んでみたのですが、一般の方達の経験談等を掲載してた本です。その中の一つを載せてみたいと思います。皆様にもこんな経験はありませんか？たった一言で…。な気分になったりしていませんか？

(稲田 記)

## 【一言の重みで人生が変わる】

鹿児島県の池田小学校の先生から、三年二組の学級通信「きらきら」をおくって頂きました。

そこには、クラスの全員に「たった一言で」に続く言葉を次々に書いてもらい、詩の形式にまとめたものが綴られていました。

担任の先生は、みんなにこう教えました。

「私たちは、ついついその場の感情だけで言葉を発してしまうことがあります。でも、こちらが考えていた以上に相手の心を傷つけていることがあります。そのことに気づくことができれば、謝ることもできますが、相手がどんな気持ちになったかを察するのはなかなか難しいものです。でも、難しくても、相手の気持ちも考えようと心がけることで、人との接し方もだんだんうまくなり、友情も育まれるものです。」

池田小学校三年二組のみんなで作った詩を披露します。担任の先生は、こう結んでいます。「たった一言ですが、されど一言。その一言は、ひょっとすると人生をも左右する大きな力を持っているかもしれません。」

### たった一言で

池田小学校・三年二組

たった一言で うれしくなる	たった一言で 心が落ち着く
たった一言で かなしくなる	たった一言で まよう
たった一言で 苦しくなる	たった一言で はずかしくなる
たった一言で 楽しくなる	たった一言で 落ちこむ
たった一言で なきたくなる	たった一言で いやになる
たった一言で「ありがとう」と言いたくなる	たった一言で おこりたくなる
たった一言で いじけたくなる	たった一言で やる気が出る
たった一言で ぐさっと傷つく	たった一言で あたたくくなる
たった一言で こわくなる	たった一言で さみしくなる
たった一言で 元気になる	たった一言で わらえる
たった一言で 仲間だと思える	たった一言で むずむずする
たった一言で 頭にくる	たった一言で…

【参考文献】「みんなで探したちょっといい話」 編著 志賀内泰弘 P60 より

## 編集後記

あと3ヶ月で今年も終わりますが、有意義な1年を過ごせましたか？年々、1年が短くなっているような気が致します。

私の姉が秋花粉で春よりもひどい症状になっており、センターにも秋花粉の方がちらほらといいます。春の花粉症よりも秋の花粉症の方が軽いとも言われております。

秋花粉は主に雑草の花粉が原因だと言われております。秋花粉症の中にはハウスダストによる症状もあるそうなのでお気をつけ下さい。ハウスダストは秋に一番増えるそうです。

ダニは9月に減少しますが、死骸や糞によりソファー・絨毯・フローリング・食品庫・エアコン・ぬいぐるみ等に付着しているそうです。カビは水廻り、特に排水口部分やエアコンのフィルターに菌が付着しているそうです。12月に大掃除するのではなくこの季節に大掃除することがよりハウスダストに効果的みたいです。普段の掃除機をかける際も、拭き掃除をした後に掃除機をかけると、ハウスダストが舞い上がらないようです。

この季節、気候がとてもいいので大掃除するにはとても良いのかもしれない。

(稲田 記)

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター  
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号  
TEL 06-6827-8833 (代)  
FAX 06-6829-2256  
e-mail tech@ks-dositu.or.jp

編集 情報化小委員会  
編集責任者 中山義久  
印刷



<http://www.ks-dositu.or.jp>